

## 支えあいの地域づくり～パークゴルフをとおして～

(北海道・北広島市)

かぜの子公園は、低利用のため雑草が繁茂し、ゴミのポイ捨てや少年非行の温床となり、住環境や教育環境が悪化していました。これらの環境改善に向けて、平成14年から町内会有志が園内にパークゴルフ場を手づくりし始めました。平成18年には幅広い年齢層の活動団体に発展し、パークゴルフ場のみならず園内の草刈りなど維持管理や地域交流試合を行うことなどにより、オアシス環境の創出、世代間のコミュニティーの活性化、パークゴルフや散策を通じた健康増進など、地域住民の心の拠り所として公園を再生させました。近年、希薄になりつつあるコミュニティーを維持向上させるモデル的な市民活動となっています。



かんりんまる

## 咸臨丸の眠るサラキ岬の交流観光拠点づくり

(北海道・木古内町)

幕末の日本近代化に一役を担った歴史遺産「咸臨丸」の終焉の地・サラキ岬。「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」は平成16年に地域住民を中心に発足し、咸臨丸の歴史や自然豊かなサラキ岬を核とした広域的な交流観光の拠点づくりとして、住民自らが考え行動し、サラキ岬で花壇や看板、咸臨丸モニュメント等を整備、充実させてきました。また、咸臨丸にちなんだ各種イベントの開催、小中学校や高校での咸臨丸講座の開催、地域の歴史やまちづくりを学ぶ学習会開催や広報誌の発行等、幅広く内外へ情報発信しています。咸臨丸ゆかりの地域や団体との交流を図るなど意欲的に活動し、地域の活性化に寄与しています。



しょうげんぬま

## 将監沼の自然とふれあいを育む～地域挙げて将監沼の風景を取り戻す～

(宮城県・仙台市)

仙台市の将監団地内にある将監風致公園は、長年にわたり整備されず荒れ放題となって、歴史ある「将監沼」の存在が地域住民から忘れられていきました。そんな中、都市の中にある緑のオアシス「将監沼」の再生と住民のふれあいを深めるため、平成16年に『「将監沼の自然」とふれあいを育む会』を結成し、ボランティアによる沼周辺の間伐、草刈りや「さくら祭り」「沼のほとりのコンサート」などのイベントを行ってきました。会員数は徐々に増加し、現在では約1,300名の会員を要するまでになり、荒れ放題だった将監沼風致公園を地域の憩いの場へと変身させています。



おおと

## 大戸源流で森づくり(都民協働で公園予定地を活性化！)

(東京都・町田市)

「大戸源流森の会」は、公園の暫定的な管理運営を東京都とボランティアとの協働で行う「プレパーク事業」を平成15年から大戸緑地で実施しています。

公園内での維持管理活動に加え、道標・ベンチ設置等の施設整備も実施しており、毎年約30回、延べ参加人数は400名を越えています。本格開園する前から地元を中心とした都民の力で管理運営した事例はなく、また、地元の人達が昔から行っている里地・里山の管理手法を取り入れ、地域に密着した活動を行っています。さらに、地元の小中学校の総合学習・PTA行事の協力を実施し、地域の教育普及活動にも力を入れています。



# 平成22年度 手づくり郷土賞（一般部門） [全22選]

ふるさと

(2/7)

## 馬入・光と風の花づつみ

(神奈川県・平塚市)

以前は不法投棄の絶えなかった相模川河川敷において、平成9年に3万m<sup>2</sup>の「馬入・光と風の花づつみ（花畑）」が整備されました。「馬入花畑の会」では整備後から継続的に草刈や花の手入れを行っているほか、地元企業や自治会がボランティア参加する際の受け皿となっており、花畑は緑化活動・環境学習の場として多く活用されています。平成16年から春と秋に実施している恒例の花の摘み取りイベントは県外からの来場者も多く、約9千人が訪れます。これらの活動の他、隣接して馬入ふれあい公園や馬入水辺の楽校が整備されたことで、花畑一体は地域住民の憩いの場となっています。



## 北国街道柳町 街並みを生かしたまちづくり

(長野県・上田市)

「柳町まちづくり協議会」では建物修景や石畳・景観水路の復元等により歴史的な街並みを取り戻した北国街道上田市柳町において、柳町夏祭り、寺小屋、落語など街並みを生かした様々なイベントを企画実施する他、近隣の上田城址を含めた観光客の回遊性を高めるための案内設置を行ってきました。これにより、地元大学生グループによるHP立ち上げによる町の魅力発信の開始や、協議会が発足した平成4年以降、新たに9店舗が開店する等、町が活性化しています。本協議会では空き家等の解消に注力するため、本年より「柳町まちづくり会社」を設立し、更なる街の活性化への活動も進めています。



## 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

(新潟県・十日町市)

「NPO法人越後妻有里山協働機構」は、平成12年より3年に一度開催している「大地の芸術祭」開催を機に、地域の自立に向けて、空家、廃校、棚田等を活用し、地域に由来から存在する魅力をアートによって掘り起こし、発信しています。

廃校にアートを取り入れ観光客を呼び込むことで、地域の卒業生が自ら学校の歴史やアート作品について説明をするなど、地域活性化につながっています。棚田についても、アートは地域の魅力を発信するための装置として機能し、地域の生活や人々の魅力を高めています。活動をきっかけに、地域住民が指導するオーナー制の「棚田バンク」が実施され、棚田保全活動へ展開されています。



## 越後高田町家三昧(高田の町家を活かしたまちづくり)

(新潟県・上越市)

町家の見学会や、明治の町家を再生・活用した公共施設「町家交流館高田小町」の整備を開始したことを契機に、市民レベルの取組として町家を活かしたイベント「越後高田町家三昧」が平成18年からスタートしました。

公開町屋軒数は、「越後高田町家三昧世話人会」による地元住民や町屋所有者への声掛けにより、当初の4軒から現在は15軒に増えています。

歴史資源である「町家」を広く観光客に知らせることができたほか、地元住民が町家の公開やお茶会などのイベントの運営への参加など、地域コミュニティの再生や新たな交流を生み出し、地域の活性化につながっています。



しゆくねぎ

## 宿根木観光ボランティア部(地元の良さを中学生が伝える活動)

(新潟県・佐渡市)

小木中学校の「宿根木観光ボランティア部」は、宿根木という歴史のある町並みを実際に観光客を案内しながら、その良さや魅力伝えていく活動を平成16年から行っています。口コミでこの活動を目当てに宿根木を訪れる観光客やリピーターの数も増え、本年度は10日間で1,368人の観光客を案内しました。

観光案内の指導は、地元のお年寄りが行っており、生徒にとっては、観光客やこうした地元の人との交流により、自分の住む地域の良さや魅力の再確認にもなっています。また、地元住民も自分たちの集落がどんなに素晴らしい所かを再認識することができ、高齢化が進む集落に刺激を与えています。



くしんさい

## 空芯菜の水耕栽培を利用した地域活性化に向けた取組

(岐阜県・恵那市)

岐阜県立恵那農業高等学校では、阿木川ダムの貯水池が富栄養化し、アオコが大量発生していたことから、平成16年より貯水池における水質浄化実験として、空芯菜の水耕栽培を開始しました。実験を通じて、生徒の地域環境保全に対する意識や、問題解決能力・コミュニケーション能力、また、地域住民などの水質保全意識について向上が図られるとともに、空芯菜を活用した地域活性化の活動が拡がりを見せています。なお、恵那農業高校からは、ユネスコ活動の一環として生徒がカンボジアに赴き、空芯菜の水耕栽培について技術指導を行うなど、国際的な活動に展開しています。



もんぜんちょう たにくみ

## 歴史ある門前町谷汲の再生を目指して

(岐阜県・揖斐川町)

谷汲門前地区は、西国三十三箇所巡礼地の門前町として賑わいをみせていましたが、平成13年の名古屋鉄道谷汲線が廃止されて以来、観光客が減少していました。これより、かつての活気を取り戻すため、平成18年、参道沿いの店主が集まり、「谷汲門前街並づくり委員会」を立ち上げ、行政による街並みの修景と合わせ、自らも店舗の改修を行いました。更に、谷汲門前ならではの統一感を持つため、オリジナルキャラクター「いのりちゃん」を考案し、PR活動を展開するとともに、賑わいづくりに向けた四季折々のイベントを企画・運営するなど、地域と行政が一体となって、地域づくりに取り組んでいます。



## 住民みんなでつくった公園「つるしろふれんどぱーく」

(愛知県・西尾市)

西尾市内の新興住宅地の中に伊藤1号公園「つるしろふれんどぱーく」が計画されたのを機に、地域の住民自身が子供から老人みんなが本当に求めている公園づくりを考えようと、平成11年に「西尾の公園を考える会」が設立され、住民参加を呼びかけてワークショップやイベントなどを開催して、住民の意見をまとめ、公園のレイアウト案を作成し、市長に対し提案しました。今後は、完成した公園において、行政と住民の協働による維持管理や活用方法などの調整役としての役割を担っていくとともに、引き続き、西尾市が計画する公園づくりに“新たな公”として参画するなど活動を展開していきます。



いせ かわさき  
**伊勢河崎のまちづくり 町並みと川を生かしたまちづくり**

平成11年、伊勢河崎の歴史と文化を生かしたまちづくり活動を目的として、「特定非営利法人 伊勢河崎まちづくり衆」が設立されました。その後、伊勢市により整備された地域活動の拠点となる「伊勢河崎商人館」や「河崎川の駅」の管理・運営を始めとし、「だいどこ市」や「河崎商人市」の開催、勢田川の活用、歴史文化の調査・提示など、住民が主体となり、行政などとの協働によりまちづくりを進めています。特筆されるのは、河崎で新たに住みたい人、商いをしたい人に対して、空き家・空き蔵の情報提供や試住体験を行うなどにより、歴史的な町並を保存・活用し、さらには観光交流を積極的に展開したまちづくりを進めていることです。

(三重県・伊勢市)



おおてがわ  
**大手川河川改修事業に伴う魅力的な市街地の再生**

平成16年に甚大な台風被害にあった大手川の復興として河川改修を進め、整備にあたり、地域の景観やまちづくりを一体的に進めるべく、市民参加のワークショップで提案した整備計画を元に公共工事が実施され、護岸の城壁復元は「宮津城の城壁復元に取組む会」によって整備しました。大手川護岸に整備されたしらかべのみちや大手川ふれあい広場では、17年ぶりに再開した「ダンボール舟レース」等複数のイベントが開催され、市民や観光客が憩える癒しの場となっています。また、周辺環境の美化活動の開始等市民団体が中心となった組織が複数立ち上がり、市域全体のまちづくりの機運が高まっています。

(京都府・宮津市)



**歴史的な古民家の再生及び地域活動拠点としての利活用**

吹田歴史文化まちづくりセンターは、平成15年より吹田市に寄贈された江戸時代後期の歴史的な古民家を再生し、地域のまちづくり拠点施設として公設民営されています。設立当初より清掃ボランティア・喫茶ボランティア等12のボランティアグループの協力により運営され、「季節行事」や「文化教養講座」等年間70回の事業を開催し、現在では年間来館者数は約2万人を越えています。また、案内人制度や2ヶ月毎に発行している会報誌「吹田の渡し」、ホームページ等を通して活動発信を充実させ、市民活動の支援や相互の交流及び連携を促進し、地域のコミュニティ再生に寄与しています。

(大阪府・吹田市)



たつた ことう  
**桜の龍田古道の復活**

廃棄物処分場としていた場所を万葉の時代の桜の龍田古道に復活させようと考え、平成17年7月7日に「龍田・三室山桜の会」を立ち上げ、龍田古道里山公園や龍田山・小鞍の嶺・三室山周辺一帯に桜を植樹しました。会員になると、桜の植樹をすることができ、桜にはオーナー名の名札が架かります。このオーナー制が評判となり、会員は、地元民だけでなく、南国奄美大島や徳之島、台湾の方々を含め1,130名を突破し、桜の公園は13箇所、来春には桜の植栽は累計3,000本にのびます。また、毎年4月の第一土曜日には桜祭りが開催され、大勢の花見客で賑わい、地域の活性化に寄与しています。

(大阪府・柏原市)



たかとり とさ

## 高取土佐街道 町家の雛めぐり

高齢化、核家族化により地域活力が衰退する高取町では、地域経済とシニア住民の人材活用を図る取組の一つとして、町道観覚寺～下子島～清水谷線沿いの町家にひな人形を飾って公開し住民と観光客との交流をすすめる「町家の雛めぐり」が実施されています。平成19年より毎年3月の一ヶ月間実施し、平成22年には雛人形を飾る町家が初年度対比2.5倍の90軒に参加住民数は9.5倍の3,988人とますます活発に取り組み、観光客数は初年度から6倍の49,100人、経済効果は4.3倍の6,900万円と回を重ねる毎に賑わいを見せ、「商店の活性化」と「シニア住民の心身機能の活性化」に大きく寄与しています。

(奈良県・高取町)



しんじ

## 宍道湖夕日スポット

「嫁が島」周辺の宍道湖畔は宍道湖に沈む夕日に多数の鑑賞者が訪れる観光スポットですが、歩道が狭く来訪者と一般通行者との輻輳や路上駐車が問題となっていたことから、市民等からの意見も取り入れ、安全に配慮しつつ夕日が鑑賞できるスペースとして宍道湖夕日スポットが平成19年に整備されました。同時に、多くの地元企業等がボランティアに参加する「夕日スポット・クリーンサポーター」が結成され、オープン当初から清掃活動を行っており、現在21団体350名が参加しています。清潔に保たれた本スポットでは、賑わい創出のイベント等も開催されるなどさらなる活性化のきっかけとなっています。

(島根県・松江市)



## 道から始める『新しい公共』のまちづくり

「新居浜市泉川校区連合自治会（昭和39年設立）」は、自治会の活動の中で広く道路愛護や地域づくりの大切さを提唱し、様々な取り組みを行っています。平成18年11月には、国土交通省のVSP（ボランティアサポートプログラム）に関する協定書を締結し、国道11号新居浜バイパスにおいて植樹帯や歩道の清掃・除草活動を続けています。

国と地元住民、市の役割分担を明確化し、単なる維持管理ではなく、地域の財産として住民が道を育てるという発想から、みんなが熟議を重ね、納得した上で活動に取り組んでいます。

(愛媛県・新居浜市)



ぬい いけ

## 40年ぶりに復活した縫ノ池湧水の保全と地域づくり

佐賀県白石町の縫ノ池は、昭和30年頃からの地下水汲み上げで涸れていましたが、佐賀導水事業により、水道水を地下水から河川水へ転換したところ、湧水が復活し、40年ぶりにその姿を取り戻しました。これを機に、平成14年に「縫ノ池湧水会」（会員260名）を発足し、清掃活動はもとより、夏のキャンドルイベント、釣り大会、茶会等のイベント、水辺の体験学習を地域住民が中心となり年間通して開催しています。子供から大人まで参加することで、地域のコミュニティの形成、世代間コミュニケーションの活性化に繋がっています。県内の他の活動団体と意見交換を行い、活動の参考にするなど、積極的な活動を展開しています。

(佐賀県・白石町)



## ホタルの里づくり（ホタルの里できらめく☆城河原☆）

（熊本県・天草市）

天草市城河原地区を流れる内野川に平成12年頃からホタルが見られるようになり、ホタルが未永く棲めるような環境を創り、地域の活性化につなげていこうと、平成14年に「城河原地域づくり振興会（会員130名）」を設立し活動しています。中でもホタルフェスタは、平成14年の開催以降、地域最大のイベントとして定着しており、今では観光客が2千人を超えるほどになりました。また、地元小学校と連携し、小学生が天草空港を利用して福岡市の小児病棟にホタルを届ける「ホタル交流便」を実施しています。住民総参加をテーマに、環境活動から地域活動まで、地域住民が一体となって取り組んでおり、地域の活性化に大きく寄与しています。



## びせ 備瀬のフクギ並木

（沖縄県・本部町）

備瀬のフクギ並木は、今から250年以上前に屋敷の防風林として整備されたのが起源とされ、戦争による焼失等を間逃れ今や沖縄県内においても伝統的風景として貴重な景観資源となっています。

備瀬区住民の人々は、先祖代々受け継がれてきた地域の財産であるフクギ並木を、日常的に維持・管理し続けています。

その結果、防風林という防災機能を保持しつつ、伝統的景観が保全され、最近では沖縄の美しい風景を求めこの地を訪れる来訪者が増加しています。又沖縄の観光地として有名な美ら海水族館、世界遺産の今帰仁城跡等が近辺に点在しており、備瀬のフクギ並木を一体とした観光ルートとして定着してきています。



## 犬山城下町地区のまちづくり

「犬山北のまちづくり推進協議会」は平成6年に城下町北地区の町内会・住民等から組織されたまちづくり団体で、平成8年度に始まった城下町地区（どんでん館、大本町通り）の整備において計画策定段階から参加し、平成13年「地域整備部門」受賞後も、どんでん館等を活用したまちづくり活動を継続しています。平成17年から行われた本町通りの整備においても、城下町の景観に配慮した道路整備等に、計画策定段階から官民協働で取り組んでおり、歴史的な建物の保存・修景が進むことで城下町の価値が上がり、城下町の賑わいが創出され、地域コミュニティの形成や観光交流が促進される等の成果を上げています。

(愛知県・犬山市)



## 南港生きもの育て隊 アオサ取り

「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」に登録されている大阪南港野鳥園には、干潟が人工的に再生されています。この干潟には、貝、ゴカイ、カニなどのさまざまな生き物が生息しており、これらの小さな生きものを食べる野鳥が集まってきます。大阪南港野鳥園では、行政、NPO法人、市民、企業ボランティアが協力して継続的に環境保全活動が行われています。平成18年の受賞以降、「NPO法人南港ウェットランドグループ」としてNPO法人化したことも影響し、活動がさらに充実し、湿地の役割や楽しさを伝える教育・普及活動や夜の鴨や蟹の観察会等月に1度以上のイベントを開催しており、市民の憩いの場として活用されています。

(大阪府・大阪市)



## 鹿野祭りの似合う街づくり

鹿野祭りの似合う街づくりをテーマに街なみ環境整備事業を行っている当地区では、平成13年に「NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会（会員数40名）」が設立され、整備事業にあわせ、町なみに似合うイベント開催や、藍染め暖簾を町内に普及させるなど住民も巻き込んだ景観向上に取り組んできました。平成18年の受賞以降、フォーラムの開催や、空古民家再生プロジェクトによるシェアリングハウス等の誕生で空き屋再生が進み、各地からアーティストを長期間招き空き屋を活動の場として提供するなど県境を超えた交流に発展。また、今年整備された鹿野往来交流館は地域と来訪者の交流、情報発信の場となっています。

(鳥取県・鳥取市)

